

ご父兄の皆様へ

東北大学医学部後援会会長
舟山 真人

このたびはご子息・ご子女のご入学まことにおめでとうございます。仙台は気候的にも、文化的にも、大変住みやすい町です。中心地や郊外に近代的な店舗が建ち並ぶ一方、ふらりと散歩の足を少し伸ばせば、昔ながらのお店や由緒ある史跡が目にとまるはずです。いろいろな機会に耳にする仙台弁は、親元を離れ、不安一杯の新入生をきっと暖かく迎えてくれるでしょう。

また、在学生のご父兄の方々は、日々大人になっていく子供達の姿を、頼もしく思われていることと思います。

ところで私自身、医学部の教授であります。後援会設立ワーキンググループから会長就任依頼を受けた時、立場上、学内関係者はいかなるものかと思いました。しかし、とにかく設立最初の年で、実際の活動はこれからということ、数年前まで全学(教養)教育の教務委員長であった経験から、また、現在は医学部の教務委員(医学科運営委員)である関係から、学生が学ぶ教育環境をそれなりに理解していること、そしてご父兄の皆様と教職員の方々ととの橋渡しの役目ということで、お引き受けした次第です。

さて、新学期から数か月が過ぎました。連日、難しい講義漬け、というイメージを持たれているかもしれません。しかし現在、一年生であれば学生参加型のゼミや選択に幅を持たせたカリキュラム構成など、積極性のある学生にとっては、自ら興味を持ったテーマの講義を受けられる機会が少なくありません。また、専門教育に進みますと、医学部では様々な教育に関連する活動の場が設けられています。それはカリキュラムの一環であったり、あるいはボランティアを募ったりすることもあります。例えば、オープンキャンパスでは多くの学生の力を借りねばなりませんし、医学科では高学年の学生に対して模擬患者になってもらうかもしれません。もし医学・医療に関してより深く調べてみたいテーマがあれば、それに関連する教室に自由に出入り可能なのが学生の特権ですし、そこで一定の研究成果をあげた学生には国内や国外の学会に発表してもらう機会があるかもしれません。

医学部後援会は、このような多岐にわたる教育活動への支援以外にも、学生の課外活動支援(クラブ・サークル活動や大学祭などへ援助)、会員・学生・教職員間の交流(入学祝賀会の主催、あるいは卒業祝賀会の後援など)、広報活動(会報の発行など)といった諸事業を計画しています。そしてこのような事業の中でご父兄の方々と大学との連携を深め、医学部のますますの充実・発展を目指したいと思います。ご父兄の皆様におかれましては、後援会を通じ、学生諸君の応援を心からお願い申し上げます。

ごあいさつ

東北大学医学部後援会副会長
大友 弘美



仙台市から約30キロ南下すると、太平洋と阿武隈高地に囲まれた宮城県の湘南と称される、亘理という町があります。私はその町で小児科の診療所を開業しています。診療所は大正三年に祖父が開設したもので、今年で開業94年となり、私はその三代目ということになります。この度は、子が東北大学医学部に在学中ということで東北大学医学部後援会副会長を依頼され引き受けることになりました。後援会の一員として、また親として、学生諸君に、そして子に贈る言葉がないかと思案しておりましたところ、義父から聞いたある文章が思い浮かびました。それは自省の句といえる内容の文章でした。

義父は海軍兵学校の出身でした。江田島にあった海軍兵学校では海軍士官をそして紳士を育成するモットーとして五省(ゴセ)という教訓がありました。海軍兵学校では、その日の課業が終わりと、自習室で一日を反省するとき全員で斉唱した言葉であるということを義父に聞いたことがあります。五省は戦後アメリカに輸出英訳されてアナポリス海軍兵学校のモットーにもなったということです。五省とは以下のような内容です。

《五省》	Five Reflection
1. 至誠に悖(ム)るなかりしか	1. Have you not gone against Sincerity?
2. 気力に欠くるなかりしか	2. Have you not lacked Vigor?
3. 言行に恥ずるなかりしか	3. Have you not felt ashamed of your words & deeds?
4. 努力に慥(ウ)みなかりしか	4. Have you exerted all possible efforts?
5. 不精に亘るなかりしか	5. Have you not become slothful?

この文章は、一日の勉強が終わり、研究が終わり、仕事が終わった時、自分自身の一日を省みる名言ではないかと思っています。東北大学医学部保健学科の前身である東北大学医療技術短期大学の吉崎宏教授(昭和27年東北大学卒、昭和61年逝去、産婦人科学)は、この五省のことを学生に講義していたといえます。私が亘理町で診療所を開業した時に、町の保健師が吉崎教授の教え子であつたらしく、五省を英文で書く試験問題があつたと懐かしく話してくれました。

また、医師にとっての自戒として有名なものに「扶医戒之略」があります。緒方洪庵が自分自身と弟子たちへの戒めとして十二カ条からなる訓戒を書いたもので、ベルリン大学の教授で初代医学部長でもあるフーフェランド著書である「医師の義務」を簡易平易に翻訳したものです。大阪府医師会では大阪府内の医学部卒業生全員に「扶医戒之略」を記念として贈呈していると聞いております。これら先人の言葉を参考にしながら自分自身だけの「自省の句」を持つのも良いかも知れません。

後援会へのメッセージ

東北大学医学部長・医学系研究科長
山本 雅之



東北大学医学部後援会の会員の皆様、また、ご入会を検討されている皆様に、ご挨拶を申し上げます。東北大学医学部は、仙台藩養賢堂にルーツを持ち、明治時代に宮城県立医学学校として改組・発足しましたが、以来すでに 137 年の歴史を重ねています。この間、仙台の街に根を下ろして、宮城県や東北地方の住民の皆様の健康を守ること、また、学術の振興を通して東北地方の優れた文化を世界に向かって発信することに邁進してきました。

皆様は、東北大学が「研究第一主義」、「門戸開放」、そして、「実学尊重」を合い言葉にして、過去に素晴らしい業績を積み重ね、そして、未来に向かって着実に進歩していることをご存じのことと思います。多くの素晴らしい医学研究の成果や医療実践の経験が、この星陵キャンパスから世界に向かって発信されています。また、東北大学はアジアではトップクラス、世界的にもトップ 30 を目指す研究大学として発展していますが、本医学部・医学系研究科の教員もその一翼を担って、最先端の研究成果を追求し、さらに、その成果に基づく世界最高水準の医学教育の実践に取り組んでいるところです。

ところで、医師や看護師、検査技師、医学研究者を育てるのは、決して容易なことではありません。私たちは、本医学部・医学系研究科の学生に、常に、上述のような本学のミッションを十分に理解し、「知的存在感のある科学立国」を目指す 21 世紀日本の「国の礎」となるべく、勉学に励むことの大切さを訴えています。一方、医学部・医学系研究科の学生（医師や看護師、検査技師、研究者の卵）は、応援して下さる住民の皆様とご家族に支えられ、鍛えられて、はじめて一人前になっていくという事実も同時に皆様に申し上げたいと思います。

医学部・医学系研究科の学生は、入学してはじめて、医学という学問とその実践である医療の世界の入り口に立ち、多くの先輩が苦闘した未知の世界の探求に乗り出すのです。本医学部・医学系研究科の学生には、想像力を磨き、また、体を鍛えて、大いなる可能性を秘めた医学研究・医療実践の道を歩んで欲しいと切に希望しています。一方、これら学生の学習に対する皆様の温かいご支援を心からお願いいたします。

入学記念祝賀会



「東北大学医学部後援会」設置の経緯

東北大学医学部消化器外科学教授
海野 倫明



この度、東北大学医学部後援会会報を発刊するにあたり、会の創設及び平成 20 年度入学祝賀会のお世話をした一人として、これまでの経緯を簡単にご説明するとともに、会員の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

平成 19 年 12 月に当時の菅村医学部長・医学系研究科長から命を受け、医学部医学科及び医学部保健学科の学生を支援する「医学部後援会」及び基金としての「東北大学医学部教育研究支援基金」を組織することを目的に、「医学部後援会ワーキンググループ」が作られました。本ワーキンググループでの検討の結果、既存の「良陵同窓会」や全学的な組織である「東北大学校友会」とは、一線を画した新たな組織としての「医学部後援会」を設立することといたしました。「良陵同窓会」は医学部医学科卒業生の医師を中心とした組織であり、以前より医学教育・研究には多大なる貢献をしていただきましたが、保健学科を含めた医学部全体としての活動には制限が存在します。また、「東北大学校友会」は東北大学入学と同時に全学生が入会する組織ですが、全学を通じたスポーツ活動、文化活動を主に支援しています。今回設立された「医学部後援会」は、これら同窓会・校友会とは会員構成と目的が異なる、新たな組織として位置づけることといたしました。ワーキンググループでの熱い討論の末、本会は、医学部医学科及び保健学科学生の保護者を主な会員とし、会員の皆様のご子息・ご息女への、教育・研究支援に特化する組織といたしました。

国立大学・東北大学も平成 16 年度の法人化への改組に従い、国立大学法人・東北大学と変化し、医学部にも自助努力が求められています。その一方で、現在の医学部の教育・研究環境は満足すべきものではありません。例えば、学生が昼食をとり、文房具や書籍を購入する店舗が入っている星陵会館の老朽化は著しく、その建て替えは喫緊の懸案事項です。また、講義室の音響・映像機器も最新のもののリニューアルが必要です。身近なところでは、宮城県内の病院実習に向かう際の交通費も現状では支給されておりませんし、心身を鍛えるためのスポーツ活動への援助も十分ではありません。医学部後援会では会員の皆様からの会費と、医学部教育研究支援基金の運用を通して、学生の教育・研究を全面的に応援していく所存です。

医学部後援会の記念すべき最初の活動として、平成 20 年 4 月 2 日午後 2 時からホテルメトロポリタン仙台において、医学部後援会主催の入学祝賀会が開催されました。医学部長代理として五十嵐副学部長の来賓祝辞、舟山眞人会長挨拶、大友弘美副会長による乾杯ご発声の後、入学祝賀パーティが賑々しく開催されました。柴原医学科長、吉沢保健学科長のスピーチ、在校生からの歓迎の言葉、医学科教授及び保健学科教授によるキャリアパス説明などの企画も好評で、120 名を超える参加者との楽しい歓談の 2 時間が瞬く間に過ぎたように思えます。また、ご参加されました皆様から本当に温かなお言葉を頂くことができました。祝賀会を準備した一員として厚く御礼申し上げます。

医学部後援会の活動の一環として、この会報を定期的に発刊することとなりました。本会報を通して皆様と情報を共有し、東北大学医学部医学科・保健学科の教育・研究の発展に寄与していきたいと考えております。会員の皆様の温かいご支援を頂きたく、今後もよろしくお願い申し上げます。

保護者の皆様との連携に基づく実践的医学教育の推進

東北大学医学部医学科長

柴原 茂樹



平成 20 年度に東北大学医学部後援会が新たに設立されました。後援会の主な事業目的は、教育環境の整備と学生が参加する臨床修練や課外活動の支援です。医学部後援会の運営には、保護者の皆様のご協力が不可欠です。そこで、医学科の教育理念と医学教育の概略を紹介し、医学部後援会へのご支援のお願いとさせていただきます。

我が国では、高校卒業生が直接大学医学部に進学することができます。現行制度の最大の長所は、意欲に燃えた若者を早期に受け入れ、各大学の理念に基づいた医学教育を実践できることです。

東北大学医学部医学科の理念は、医学知識と技術に裏打ちされ

た温かい人間性と高い倫理観を有する医師を育成することです。また、医師たる者には種々領域でのリーダーとして、幅広い見識と深い洞察力を有することが求められており、学生の真理への探究心を育み、問題解決に向けての指導力・実行力を養うための教育を推進しています。さらに、本医学科が如何に学生を大切にしているかを示す一例が、アドバイザー制です。すなわち、医学科入学時に、全教授がアドバイザーとして新入生と面談し（学生 4 名に基礎系と臨床系教授各 1 名の 2 名が対応）、全学教育科目の履修、専門教育の紹介等の相談を個別に行います。親元を離れ、初めて一人暮らしをする学生も少なくありません。その後もアドバイザーは担当学生との交流を継続し、適宜相談に応じます。

医学科教員は、大学の宝である学生諸君と相互に協力・連携し、問題解決型の実践的学習を推進しています。一方、大学法人化後の教育環境を整備するためには、卒業生及び在校生の保護者との協力体制の構築も重要となっています。保護者の皆様には、東北大学医学部後援会の趣旨をご理解頂き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

保護者の皆様へ

東北大学医学部保健学科長

吉沢 豊子



東北大学医学部保健学科を代表してご挨拶申し上げます。念願でありました東北大学医学部後援会が今年度発足の運びとなり、この後援会の発足は東北大学医学部の教育・研究体制の充実のために心強い味方となっていただけることに教員一同深く感謝申し上げます。

さて、私どもの学科は、大正 2 年開設の東北帝国大学医学専門部附属医院看護婦養成所に端を発し、優秀な医療人を数多く世に輩出してまいりましたが、医学部の中の一学科として出発したのは平成 15 年 10 月と新しく、今年 3 月第 1 期生を世に送りだしたばかりであり、これからの医療を支える高度な技術と知識を兼

ね備えた専門職業人の養成に邁進しているところであります。設置以来、毎年優秀な学生が入学してきており、さらに保健学科での 4 年間の教育を通し、保護者の皆様が期待されるような将来、医療・保健・福祉の場で大いに活躍、貢献できる人材となってくれることを信じております。

保健学科は一昨年より、建物の改修工事を中心によりよい教育環境の整備を行っております。本年度はその最終年となり研究棟の改修を行う予定で、来年 3 月には研究室、実験室が完成し、狭隘環境ではあるものの、ハード面での完成を見ることになります。この後は、ソフト面のより一層の充実を図り、保健学科の教育研究機能の質をさらに高めていきたいと考えております。

保健学科教員一同は、保護者の皆様と密接な関係を取りながら、保健学科の更なる発展と飛躍に努めていきたいと、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

実習風景



医学部の近況

東北大学医学部副学部長
五十嵐 和彦

東北大学医学部がどのような将来構想のもとに改革に取り組んでいるのか、その状況と特色を紹介いたします。

1. 東北大学と医学部の将来構想

東北大学は理念に「研究第一主義」を掲げ、「世界リーディング・ユニバーシティ」を目指しています。国際レベルの研究を推進し、人類社会の発展に貢献することを目標にしています。ライフサイエンスに関わる教育・研究の強化は、医療、環境、食糧などに関わる世界規模の諸問題を解決する上で喫緊の課題となっています。そこで東北大学では、医学部と医学系研究科を中心に教育・研究体制を強化し、「指導的臨床医・医療人の養成」と「指導的研究者の養成」を進めるとともに、星陵キャンパスを世界リーディング・ユニバーシティに相応しいメディカルセンターへと発展させることを希求しています。

2. 学部教育改革

本医学部における教育の特色は、単に知識や技術を身につけるだけではなく、真理を求める「探求心」や柔軟な「思考能力」、そして、「問題解決能力」を育む点にあります。例えば、医学科では3年次に4ヶ月におよぶ基礎医学修練を設け、それまでに学んだ知識を医学研究に応用し、問題解決を実践する機会としています。知識偏重、技術偏重に傾くことなく、探求心や問題解決力の涵養に重点をおいた本医学科のカリキュラムは他の医学部に例がありません。このような特色あるカリキュラムですが、現状に満足することなく、医学教育推進センターが中心となって常に改良・改善を進めています。「探求心」は医学・医療を開拓する医師や医療人にとって最強の武器ですので、今後は保健学科における卒業研究の充実なども視野に入れ、改革をさらに進めて行きたいと思っています。

3. 大学院教育改革

従来、本学において医学教育に関わる大学院は医科学専攻（医学履修博士課程）のみでしたが、この数年は区分制大学院である障害科学専攻（博士と修士）と医科学専攻の修士課程が本格的に稼働し、さらに本年度は保健学専攻の修士課程も設置されました。これより、医学医療のほぼ全領域をカバーする高度職業人養成（修士課程）と教育・研究者養成（博士課程）の体制が整いました。これら大学院課程には、薬学、理学、工学、農学といった様々な学部教育背景を持つ学生が集まり、医学部（医学科と保健学科）の卒業生とともに切磋琢磨しています。このような交流により新しい医学とその実践としての高度医療が創られる予感が、このキャンパスの彼方此方で感じられます。

博士課程では、21世紀COEプログラム「シグナル伝達病の治療戦略創生拠点」（平成15-19年：代表・菅村和夫教授）により文部科学省からの重点的支援を得て、生命現象の基本メカニズムであるシグナル伝達に立脚した治療開発に関わる研究教育が推進されました。さらにこのプログラムの進化版「Network Medicine 創生拠点」グローバルCOEプログラム（代表・岡芳知教授）がこの6月に採択となりました。ネットワークメディシンは聞き慣れない言葉ですが、これは、生体内の分子レベル、細胞レベル、臓器レベルでのシグナル伝達ネットワークを包括的に解明し、そのネットワークを人為的に操作することにより、がん、糖尿病や生活習慣病、免疫疾患といった病気を治療するという新しい医学の体系です。斬新なアプローチですが、その芽吹きは既にこのキャンパスで出始めています。また、グローバルCOEプログラム「脳科学」（代表・大隅典子教授）も昨年度から採択されています。医学博士課程カリキュラム自体についても、文科省大学院教育改革支援プログラムの支援のもとに本年度から抜本的な見直しが始まり、自立性や国際性を涵養する体制が整備されつつあります。

このような研究第一主義を中心とする本医学部・医学系研究科の特色ある教育プログラムの中から、次世代をリードする教育研究者が育ち、世界で活躍し、医学・医療の革新が実現するものと期待しています。

後援会会費納付に対する御礼と編集後記

東北大学医学部後援会幹事
齋藤 秀光



東北大学医学部後援会は、医学系研究科・医学部在校生の保護者の皆様が会員の組織です。医学系研究科・医学部の教育の充実と研究の発展、そして学生及び保護者の皆様、教職員相互の親睦を図ることを目的として、今年の2月に発足しました。そして、その2か月後の4月2日、入学記念祝賀会におきましては、多数の新入生並びに保護者の方々にご出席頂き、おかげさまで後援会を無事船出させることができました。また、早速沢山の会員の方々に後援会会費のご協力を頂き、重ねて厚く御礼申し上げます。私自身、微力ではありますが、幹事として、これからの後援会活動が今後益々発展しますよう尽力して参りたいと考えております。

後援会会則に規定されております諸事業としましては、①会員、学生及び教職員等の交流、②学生の学習や課外活動等の支援、③会報等の発行及び本会の活動記録の作成と保存、④その他本会の目的を達成するために必要な事業、があります。③の会報等の発行に関しまして、会報を当年度1回発行することになりました。今後は徐々に発行回数を増やしていき、この会報を通じて、後援会活動報告や総会のご案内を行い、会員の皆様と教職員との積極的な交流を図り、情報交換の場としてまいります。また、医学部後援会主催としての入学祝賀会の開催や卒業祝賀会への後援・助成などを行います。これ以外のことに

きましても、会員の皆様のご意見、ご要望を広く取り入れ、活動を進めてまいりたいと考えておりますので、医学部後援会事務室へ忌憚のないご意見などをお寄せ頂きたく存じます。

1990年代からの規制緩和が進む中、2004年より国立大学も法人化が実施されております。そのため、東北大学医学部・大学院医学系研究科でも、自ら教育研究環境を構築しなければならなくなっており、学生や大学院生の教育支援と研究支援を目的とし、東北大学医学部教育研究支援基金が創設されました。この教育支援には、教育環境の整備だけでなく、学生のクラブ活動や健康管理の支援や奨学金制度や表彰などの支援も含まれております。また、研究支援には、学生や大学院生の研究そのものへの支援だけでなく、海外派遣の支援や情報ネットワークの整備支援、社会・地域との連携支援などがあります。教育環境の整備に関しましては、現在厚生施設として、学生や大学院生の多くが利用しております星陵会館の老朽化が問題になっておりますので、医学部学生会館として、新たな建設も予定されております。医学部後援会もこの研究基金の趣旨に賛同し、協力していききたいと思いますので、会員の皆様にはこの趣旨をご理解頂き、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

なお、詳細につきましては、「東北大学医学部教育研究支援基金」パンフレットをお読み頂ければと思います。



東北大学医学部後援会事務室

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1
TEL: 022-717-7870 E-mail: med-koen@med.tohoku.ac.jp